

Vol. 9 1

編集 環境パートナーシップちば
代表 桑波田 和子
事務局 千葉市中央区中央港1-11-1
(一財)千葉県環境財団事務局
環境活動支援課
電話 043-246-2180
FAX 043-246-6969



だより

— つながれ ひろがれ —

平成25年度の活動に向けて

環境パートナーシップちば 代表 桑波田和子



本日は平成25年度総会にご出席いただきありがとうございます。また、御来賓として、千葉県環境政策課温暖化対策推進班長の小高宏志様、千葉県環境財団の山口幸一様にご多忙の中ご臨席いただきありがとうございます。

おかげさまで、環境パートナーシップちばも24年度の事業を無事終え、25年度の歩みをスタートすることになります。そこで、本日の総会では、皆さまのご意見を頂き今後の参考にさせていただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

さて、平成24年度の当会の主な事業の1つとして、エコメッセ2012inちばの開催に向け、事務局機能を担当しました。エコメッセちばは、140団体の出展と12,000人の来場者がありました。多くの方が環境に関わる出会いの場をきっかけと、今後の活動へとつなぐために、「環境協働創造市」を24年度からスタートしました。これは「協力してと協力します」をつなぎ、環境活動が多くの方へ広がることを支援する活動です。

2つ目は、千葉県環境学習指導者養成講座を受託し、講座を担わせていただきました。こちらは幸いなことに2年間受託することができ、23年度の経験を生かしながら24年度の事業を実施できました。この講座では、受講生の環境を学ぶ熱い思いを感じながら、受託団体としてどのように対応するかについて、真摯に向き合ってきました。今日ご参加いただいているスト温様やせっけんの街様にもご協力いただきました。受託団体としては、講座修了後の活動を支援していくことも責任と思い、環境情報などをお送りしています。24年度の歩みをより効果的に進めるためにも、25年度は希望を持って着実にしていきたいと願います。さらに、市民・企業・行政とのパートナーシップを推進する当会の役割を十分活かしていきたいと思っております。

「つながれ！ひろがれ！」

25年度も、会員皆さまのご支援とご協力を是非よろしくお願いいたします。

千葉県環境政策課挨拶

千葉県 環境政策課 温暖化対策推進班 小高宏志



ただいま御紹介をいただきました、千葉県 環境政策課 温暖化対策推進班の小高と申します。本日は総会にお招きいただきありがとうございます。

多種多様な環境問題という大きな課題に対しては、県や市町村、県民の方々、事業者といった様々な主体が連携して自主的・積極的に取り組むことが不可欠であり、いろいろな活動をひとつひとつ着実に積み重ねていくことが重要であると考えております。

こうした活動を継続していくことは決して容易なことではなく、「環境パートナーシップちば」の皆様におかれましては、いろいろと御苦労もされてきたのではないかと存じますが、エコメッセのような大きなイベントから、環境学習や地域に密着した環境保全のための取組など、幅広い環境活動を長年にわたり実践され、本県の環境行政に多

大な御協力をいただいておりますことに深く感謝申し上げます。

また、東日本大震災から2年が経過し、解決に向けて取り組まなければならない課題もまだまだ多くございますが、一方で震災を契機として、省エネや環境問題などに対する国民の意識も変化してきたところでございます。

そのような状況の中で、皆様には大変重要な役割を果たしていただいております。今後さらに、その活動の輪が、まさにつながり、そして広がっていくことを、大いに期待しているところでございます。

県としても、引き続き皆様方をはじめ様々な主体との連携・協働に努めてまいりたいと考えておりますので、今後とも御理解と御協力をよろしくお願いいたします。

終わりに、「環境パートナーシップちば」の今後 いたしまして、挨拶とさせていただきます。
ますますの御発展と、会員の皆様の御健勝を祈念

平成25年環境パートナーシップちば総会挨拶

(一財)千葉県環境財団 業務部 山口幸一



只今ご紹介に預かりました、千葉県環境財団の山口です。今日は、総会にお招きいただきまして、誠にありがとうございます。環境パートナーシップちば様は、1997年の6月に設立以来、発足当初より事務局を当財団に置き、財団とは二人三脚のような関係でございます。

毎年挨拶の際に申し上げていることですが、環境パートナーシップちば様は、ゆるくて、それでいて強いつながりで結びついた全国的に見ても大変珍しい団体でございます。

緩やかな連携を保つためには、お互いを認め合い対等な立場でなければ成り立たないと考えます。一見、強いリーダーシップのもとに会を運営して行くことが良いように思えますが、多種多様な環境問題に対応するためには、柔軟でしなやかな、つながりによる活動が必要ではないかと思ひます。このような運営を行えることは、桑波田代表はじ

め、役員、会員のご努力の賜物でないかと思ひます。

さて、平成21年度に印旛沼・手賀沼がそろってワースト5位にとり、昨年、環境省が発表した平成23年度測定データでは、印旛沼・手賀沼がワースト1位、2位と不名誉な結果となってしまいました。環境パートナーシップちば様におかれましては「印旛沼をきれいにする活動」など、印旛沼浄化のためにご活躍されており、今年度益々、環境パートナーシップちば様や会員の皆さまの活動が重要となってきていると思ひます。

当財団では、今年度も環境活動支援事業や温暖化防止など多くの事業を展開していきますので、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

最後に、環境パートナーシップちばの皆さまの御発展と会員の皆様のご健勝を記念して、簡単ですが挨拶とさせていただきます。

平成25年度(第17回)定期総会報告

4月21日(日)午後1時から2時まで、千葉市文化センター会議室において会員26人の出席を得て、平成25年度(第17回)定期総会を開催しました。

初めに当会の桑波田和子代表から挨拶、続いて千葉県環境生活部環境政策課班長・小高宏志氏、一般財団千葉県環境財団業務部・山口幸一氏から来賓の挨拶をいただきました。

続いて、議長に土田茂通氏、書記に斎藤清氏を選出し議題に入りました。事業部長の牧内弘明氏より平成24年度事業報告、会計の橋本公江氏より会計報告、会計監査の大西優子氏より会計監査報告があり、承認されました。桑波田代表より平成25年度事業計画(案)、予算(案)、役員(案)が提案され、予算については数字の間違いが指摘

され、修正の後に満場一致で可決されました。その他として当会のNPO法人化を前向きに検討していくことが提案されました。

なお、本年度の活動方針は平成24年度の実績を踏まえ、事業部の柱としての、エコメッセ事務局機能の充実と環境学習プロジェクトチームによる環境学習の活動の進展を図ります。さらに印旛沼をきれいにする活動では、特定外来種のナガエツルノゲイトウの調査及び啓発活動を官・民等と流域での連携・協働を進めます。26年2月には、ESDフォーラムの開催に向け、個人会員及び団体会員、他団体などへの呼びかけを進めていきます。

運営委員会では役員以外に事業部にスタッフ2名が加わり、事業の活性化を進めます。

(文責：山田多恵子)

25年度から、以下の方が新しく運営委員になりました。

会計：中村明子さん

数年前、県立博物館と市民との協働企画がきっかけで桑波田さんと知合い、環境学習講座がきっかけで小倉さんと知合い、環ばの仲間に入れて頂きました。

環境も縦割りではなく横のつながりこそが問題解決の糸口になると思う今日この頃です。

どうぞよろしくお願ひします。

事業部(環境学習プロジェクト)スタッフ ：広田由紀江さん

環境学習プロジェクトチームの一員として、役員に戻ることになりました。

環パちばの環境学習を盛り立てていければと思っています。

今後とも、どうぞよろしくお願ひいたします。

第56回エコサロン「環境学習大集合！」報告

今回のエコサロンは、総会の後だったことと、今までの環境学習指導者養成講座の受講生のみなさんにお誘いしたため、30名の方たちが参加してくださって、以下のテーマで活発な意見交換をすることができました。

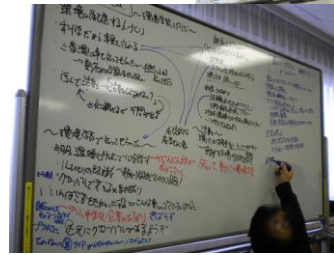
- ① 私の考える環境学習とは
- ② わたしが環境学習で訴えたいこと
- ③ 事例紹介「町内会での環境問題の取り組み方」
- ④ 環パが行う環境学習、環パに期待すること

特に③の事例紹介にはみなさんが感心し、今後の活動の発展に期待する声が大きかったです（小林悦子さんの報告記をぜひお読みください）。

④の環パに期待することとしては、もっと団体会員同士の交流があってもよいのではないかという意見が出ました。これは大変重要なご指摘だと

受け止めました。もともと環パを作った目的が「団体の（ゆるやかな）つながり」だったからです。この考え方を環パのこれからの環境学習にぜひ取り入れていかなくては、と思ったことでした。

（文責：小倉久子）



町内会での環境問題の取り組み方

— 地球温暖化をテーマにして — その1

環境パートナーシップちば 小林悦子

この4月、「地球の温暖化」に関心を持つ第一歩として、自宅のエネルギー消費量を把握するために環境家計簿をつける「わが家の消費エネルギー量を知る」会を、町内会の中で立ち上げました。

町内会の方々とお話しする中で出された問題点をできるだけ解消して、多数の参加を得るためにさまざまな工夫をしました。概略は以下のとおりです。

●興味を持っていただくために

- (1) 世話人が消費量を炭酸ガスに換算してグラフ化することをサンプルで説明する。
- (2) 1年間の経過、昨年度との比較等、長いスパンでのデータ解析も視野に入れて取り組むことを広報する。
- (3) 料金も調べてグラフ化する（主婦の方の希望を取入れた）。

●参加しやすくするために

- (1) 収集したデータは、目的外に使用しないことを確約する。
- (2) 他人との比較ではなく、自宅の状況を把握するための活動だから、データは何かの項目が欠けても、月単位で抜けても構わないといったゆるい気持ちで取り組むことを提唱する。

●手数を省くために

- (1) エコカレンダー（千葉市より給付）にその月の該当項目の請求/領収書を貼る。

- (2) 可燃ごみは、エコカレンダーの該当日に出した袋数をメモしておく。世話人会が重量に換算する。
- (3) データ等の配布/収集はお通し袋を使い、なるべく近い家へ持って行けば済むように配慮する。

●プライバシー保護のために

- (1) データ類は封筒に入れてからお通し袋で運搬する。
- (2) 家庭番号は無作為化した2ケタの数字が書かれた封筒を好きに選ぶことで決定するので、本人にしか分からない。
- (3) お通し袋には常に余分（ダミー）2部を入れておき、個人が特定されないように配慮する。

こうして開始した活動を持続的に拡大するための広報として、「家計にも、地球にも、やさしいエコ生活のくふう」1. 節電、2. 節水、3. ガス、灯油とガソリンの節約法についての情報を、1か月ごとに町内会全戸に回覧します。この3回シリーズが終わった時点で、会員の方々の意見を聞いて、次のテーマを設定したいと考えています。

町内会での活動は、自宅の近辺で「こんにちは」とあいさつできる方々が力になってくださることが分かりました。本当にありがたいことです。活動は緒についたばかりでまだ報告らしいことはできませんが、私は得ることが多くて嬉しい思いをしております。

里山この10年 里山シンポジウムの活動と里山保全の動き

里山シンポジウム実行委員会・ちば里山センター
代表 金親博榮

いま振り返れば、10年はあっという間の早さでした。もう里山シンポを始めて、そんなに時が経ったのか、よくやってきたなあ、という感慨と、同時にその間に何ができたのかと思う無力感もよぎります。

県民の有志が一緒になって、ボランティア活動として、里山に関するシンポジウムを初めて開催したのが2004年、それから、「里山に託す、私たちの未来」をテーマとして掲げ、毎年多種にわたる分科会を各地で開き、県内各市を全体会場として移動しながら開催を繰り返し、今回で10回目を迎えることができました。多くの方々に支えられ、得られた結果と感謝しています。

この里山活動は、多分野にわたる、自発的な市民のボランティア活動、NPO活動として、大きく発展することとなりました。住民の参画する地域づくりのスタートでもありました。

振りかえれば、2004年第54回全国植樹祭の千葉県での開催を機に、全国での先駆けとなった千葉県里山条例の施行と、この実行を推進する施策としての、ちば里山センターの設置、里山シンポジウムの継続的な開催などを通して、県民参加の森づくりが積極的に動き始めたのでした。

実行委員会という名称にもかかわらず、出入り自由の委員会、委員の全員は流動的なため正確には把握できず、参加できる人が、できる時に、できるだけ的事をする、世の常識からすれば、体をなさないといわれても仕方ない組織形態で、よくも走ってきたものです。

心中は、「大変だけど、やめたくない。ボランティア活動は飽きっぽくて、信用できない・・・そんな例にしたくない。時代の流れからいえば、この活動は決して外れたものではないという確信。随所に新しい出会いがあり、私にとっては、知らないことを満たしてくれる情報が、川のごとく流れている場所、それが里山シンポ」。

当初、「里山」の認識は薄く、「なに市にある山ですか」と問われることもよくありました。その後、国際的にも、環境の大切さがテーマとなるに従い、「SATOYAMA」として、人の住む里と、それを取り巻く森林、田んぼや畑などの一体としての空間を指す、普遍的な用語となりました。ま



(代表 金親博榮氏)

た、生物多様性を支える基盤としての「里山」の大切さが改めて議論され、環境保全＝里山の保全といった感を呈するまでになっています。

環境活動は、基本的にローカルなものです。国際的な取り決めがあれば環境が良くなるわけではありません。グローバルな活動も大切ですが、生産や、生活の中や、その周りで、ひとり一人が、一社ごとに改善した結果の累積が、成果を生むものです。

この十年、やるべきと思いつつ、できていないことが沢山あります。①あいまいな土地境界 ②40年前と同じ木材の価格 ③里山が持つ多面的な機能の認識欠如 ④竹林の拡大 ⑤杉の溝腐れ病の蔓延 ⑥循環型社会と森林の役割の理解不足 木材の利用によるCO2の削減 ⑦森づくりでの生物多様性の視点 ⑧事業者の参加不足等、国民的な合意に基づく体制など、10年前に「問題」としていた事項が、何一つ解決していません。

しかし、私たちがやってきた、小さなことは、まさに、時流を先取りした行政、市民、専門家と企業が、協力して働いてきた足跡と自負しています。

何事によらず、外部のもの依存することには限界があります。地域がしっかりし、支えることは、それぞれの問題に対処する基盤です。自分ばかりではなく、隣を、そして地域を大切にする、持続可能な生き方が、里山の根幹と考えています。

第10回 里山シンポジウム報告 「里山、これまでの10年、これからの10年」

2013年5月18日(土)千葉経済大学において開催されたこの里山シンポジウムに初めて参加しました。私は以前、「里山?それって何?」と不思議に思った記憶がありますが、今もよく分かっているわけではなく「里山」の「初心者」です。私は里山で暮らしていないシアウトドアに出かけていくこともほとんどないので、意識も実感も薄く、平均的な現代の日本人といったところでしょうか。「里山」は地域や時代、それに個人々の生活の仕方の違いから、様々な顔や表情、そして人との関わり方があるのでしょうか、と、まあざっとこんな感想を持っている状態でした。

しかし、午前中の分科会、午後からの講演や報告はどれもずっと心に入ってくる内容でした。それは里山がそもそも人々の営みのベースであったことに所為するからかもしれません。

午前中の分科会では、私は『④ 医療福祉・教育・芸術・観光など「文化サービス」』に参加しました。自然の中でのアート、幼児教育(子育て)、また法律、高等教育の場での里山について、それぞれ取り組んでおられる方たちの報告でした。自然は、自然に対して心を開く者に豊かな恵みを分けてくれる、というのがアートと子育ての話から感じたことでした。法律や高等教育の場での話は、体験や知識として子どもたちに伝えている現状についてでした。午後の記念講演は涌井史郎さんの「環



(記念講演講師:涌井史郎氏)

境革命の時代が」で、豊富な知識をちりばめた内容に聞き入りました。人間も含め自然は変化するのが常、里山も、広く環境も昔に戻すのではなく、革新していかなければならないというものでした。

この10年、里山シンポジウムにかかわってこられた方たちの努力に敬意を払いつつ、里山、また様々な地球上の問題について見て見ぬふりをするのではなく、我がこととして考える、そんな雰囲気広がりますように。若者の力にも期待し、私もできることを地道に行っていきたい、そんなふうに思った一日になりました。

(文責:中村明子)

「浦安市環境フェア」に参加して

浦安水辺の会・浦安三番瀬を大切に作る会 橋本公江

浦安市環境フェアは、例年、6月頃にJR新浦安駅前で行われていますが、今年は駅前広場の液状化対策工事のために、浦安市役所周辺で植木まつりと同時開催となりました。4月27日(土)・28日(日)の2日間、市役所前の車道を規制して歩行者天国風にして行なわれました。お天気に恵まれたこともあり、大勢の市民の方々が来場されました。

「浦安水辺の会」では実際にEボートを組み立てて車道に設置、子どもたちにも乗ってもらいながらアピールしました。テントでは昨年度の活動を中心に写真などをパネル展示し、皆さんに見ていただきました。「浦安三番瀬を大切に作る会」では、三番瀬の生き物たちを紹介するとともに、郷土博物館にタッチプールを設置してもらい、子どもたちに蟹や貝を触らせたり、かれいやはぜの



赤ちゃんの泳ぐ姿を間近に見てもらいました。

植木まつりでは苗木や鉢花の無償配布が行われ、長蛇の列ができる盛況ぶり。その流れで、環境フェアにも多くの人々が訪れました。クイズなどで盛り上がるブースもあれば、例年とは異なる客層に戸惑うブースもあり、大勢の皆さんに環境を考えてもらうことの難しさを感じました。

ナガエツルノゲイトウ Q & A

「あなたはナガエツルノゲイトウをご存知ですか？」

もしかしたら、この文章をお読みの方で「はい知っています」と答えて下さる方は、半分以下かもしれませんね。そこで、ナガエツルノゲイトウのことをQ&A形式でご説明したいと思います。

Q：ナガエツルノゲイトウってなんですか？

A：植物です。もともと南米にあった植物で、日本では1989年に兵庫県尼崎市で初めて確認されています。

Q：なんでまた、南米という遠いところの植物が日本に生えることになったんですか？

A：鑑賞用の水草として輸入され、ペットショップなどで売られていたものが、増えすぎたか、いらなくなったので捨てられ、捨てた先でどんどん増えて広がったものと考えられています。

Q：そんなに簡単に増えるのですか？

A：はい。繁殖力が非常に強いのです。そもそも水草なのに、乾いた陸地でも枯れないでどんどん増えます。根がなくても、茎から根が生えてくるので、切れ端1本でどこでも増えていくのです。もともと亜熱帯性のものなので、冬になると枯れますが、根は残るので、春になればまたどんどん増え始めます。

Q：こわいくらいですね。

A：そうなのです。ものすごい勢いではびこっていくので、今まで生えていた日本の植物が、み

んな追いやられてしまうのです。そこで環境省では「特定外来生物」として、厳重に取扱いに注意すべき生物のひとつに指定しています。

Q：千葉県にも入ってきているのですか？

A：はい。というか、実は千葉県の印旛沼流域が日本の中でも特に多く増殖している場所なのです。

Q：えっ、それは大変！さっそく退治しなくては。

A：だめだめ。特定外来生物というのは、かってに扱ってはいけません。罰金300万円の罪になってしまいます。

<つづく>

(文責：小倉久子)



花見川弁天橋から上流側にあるナガエツルノゲイトウの群落 岸から浮島状にどんどん増殖している。

(2012年10月5日撮影)

第57回 パートナーシップエコサロンへのご案内とお願い

「春の野でのれんげ摘み、夏はプールで水と戯れる、……。当たり前ことができず、いつしか外で遊びたいと言わなくなった子どもたち。先生も悩み、保護者も苦しむ状況に対して、遠くからでも気持ちを子どもたちに届けたい、福島・伊達市と新潟・見附市の第一期の移動教室が昨年実施できました。」と語る花岡 崇一様(森の贈り物研究会 主宰)をお迎えして、私たちに何ができるのか支援の形を考えます。

今回の参加費は、全てこの支援金とさせていただきます。是非ご参加いただけますようお願いいたします。また、当日参加はできないが、支援だけの参加も歓迎ですので、申込み先にご一報ください。

テーマ 伊達市の移動教室から東北支援と放射能を考える

話題提供 花岡崇一様 森の贈り物研究会 主宰

日時 6月14日(金) 18:00~20:00

会場 ちば市民活力創造プラザ

<http://chiba-npo.net/>

千葉市中央区中央2-5-1

千葉中央ツインビル2号館9階

対象 東北支援に関心のある方(30名)

費用 1,000円(支援金)

問合せ&申込み(横山)

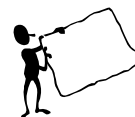
TEL: 090-6703-0129

E-MAIL: k-yoko@pop21.odn.ne.jp

県内の環境保全活動人（団体）紹介 — 16 —

おききました！ この人・この団体

財団法人 千葉 YMCA 紹介

YMCA : <http://www.ymcajapan.org/>千葉 YMCA : <http://www.ymcajapan.org/chiba/>

当会の団体会員である、財団法人 千葉 YMCA 常務理事の青木氏が、4月21日の当会の総会にご参加されたのを機に、千葉 YMCA を訪問させていただきました。

理事の青木氏は、大学の数学の教員を40年勤められ、その後、ボランティアとして千葉 YMCA の常務理事をされています。

YMCA は、キリスト教を基盤とする団体で、ボランティアとスタッフの協働により、団体運営・プログラム運営されています。活動は、非営利公益団体として地域のニーズに即したプログラムを提供し、青少年はもとより、あらゆる年代、性別、宗教の人々がかかわり、119の国と地域にひろがる国際団体だそうです。

日本 YMCA の基本原則は、HP で以下のように掲載されています。

「・私たち日本の YMCA は、イエス・キリストにおいて示された愛と奉仕の生き方に学びつつ、世界の YMCA とのつながりのなかで、次の使命を担います。

・私たちは、すべての人々が生涯を通して全人的に成長することを願い、すべての命をかけがえないものとして守り育てます。

・私たちは、一人ひとりの人権を守り、正義と公平を求め、喜びを共にし痛みを分かちあう社会をめざします。

・私たちは、アジア・太平洋地域の人びとへの歴史的責任を認識しつつ、世界の人びとと共に平和の実現に努めます。」

そこで、青木氏は千葉 YMCA の活動について、以下のように説明されました。

千葉県内では、千葉センターと柏センター、船橋地域デポ、長柄町にある千葉市少年自然の家の指定管理者としての拠点がある。千葉市少年自然の家では、YMCA の職員等20名がプログラムスタッフとして、市内小学校の校外体験授業に奉仕するほか自由プログラムやファミリーキャンプなどの事業を展開している。センターでは、子供向けの自然体験キャンプや軽度の発達障害を持つ小・中学生の支援教室を開講している。さらに通信制高校も開設し、スクーリングは千葉英和高校で実施されている。これらのことを通して、人間

性を育て、やがては世界平和につながり環境にも関わっていくと語られました。

他にはいのちの電話、国際交流協会などにも千葉 YMCA として関わっている

そうです。YMCA の活動には、福祉系や看護系の学生ボランティアがリーダーとして多く関わっているようで、自然に親しむことを学ぶ機会がもっと必要と青木氏が話されました。当会として支援ができる所かと思えます。

平成23年の東日本大震災では、仙台、盛岡の YMCA がセンターを設けて支援活動を展開し、千葉 YMCA は、被災地福島の子どもたちを千葉市少年自然の家に招きキャンプを実施したそうです。青木氏から5月25日に東北被災地で活動している方の話があるとお聞きし、こちらも参加いたしました。

講師の秋山胖(ゆたか)氏は、中学時代から YMCA で育ち、千葉 YMCA の元理事、元文教大学教授で教育部門がご専門です。退官後、仙台といわきに2011年に設立された、食品放射能計測所『いのり』の運営委員会に関与され、支援をされました。秋山氏は、「あごひげのない夏顔」「あごひげのある冬顔」の2つの顔があるそうです。理由は、冬顔はサンタクロースになるためだそうです。「サンタのお声がかかれば、自前のおひげで登場します」とユーモアあふれる方です。その秋山氏が、放射能汚染では地域の方の「なげき」に答えることができないとお声を詰まらせてお話しされたのが、心に強く響きました。秋山氏は生まれ育った市川市から70歳にして人生で初めて福島県いわき市へ引っ越され、被災地の人々や子どもたちの支援活動に尽力をされています。

今回、YMCA の事業などヒヤリングさせていただき、YMCA の活動そのものが、持続可能な社会の実現を願う ESD の視点に立っていると思えました。

(文責：桑波田和子)



(常務理事 青木一芳氏)

運営委員会報告

環パ通信【メルマガ】ご希望の方はアドレスを
info@kanpachiba.com にお知らせください。
(広報部)

4月運営委員会

日時 4月12日(金) 18:00~21:00

場所 船橋市民活動センター

【報告】

- ・だより90号印刷・発送
- ・24年度会計監査
- ・平成25年度 第1回エコメッセ総会(4/11)
- ・その他

【協議】

- ・だより91号
- ・総会準備
- ・エコフェアいちはら(6/15)
- ・6月エコサロン(花岡氏)

5月運営委員会

日時 5月9日(木) 18:00~21:00

場所 船橋市民活動センター

【報告】

- ・平成25年度総会終了
- ・その他
- ・青少年協会から(環境学習・アイスブレイキング)

【協議】

- ・だより91号
- ・25年度活動計画(情報発信の形について)
- ・エコサロン ・ESD
- ・ナガエツルノゲイトウ ・エコメッセ
- ・環境学習プロジェクト
- ・事務局体制

お知らせ

以下の環境フェアに、当会も出展します！
～近くにお住まいの会員の方、
環パちばブースにお立ち寄りください～

①第16回ふなばし環境フェア

日時：6月8日(土) 10:00~16:00

会場：中央公民館(船橋市本町2-2-5)

主催：船橋市環境フェア実行委員会

②第20回エコフェアいちはら

日時：6月15日(土) 10:00~15:00

会場：市原市勤労会館・市原市総合公園

主催：エコフェアいちはら実行委員会

※駐車場がありません。市原市役所から
無料シャトルバスが出ます。

★花見川ナガエツルノゲイトウ

現況調査参加者募集！

日時：6月21日(金) 9:30~12:00

集合場所：花島公園コミュニティセンター入口

参加費：100円(保険代)

調査内容：花見川に生息する

ナガエツルノゲイトウの調査

主催：環境パートナーシップちば

参加申し込み：

e-mail：info@kanpachiba.com

Tel：090-8116-4633(環パちば携帯)

再生紙使用

「環境パートナーシップちば」は、環境活動の推進と充実を目指し、千葉県内の環境市民のゆるやかな連帯のもと、相互の情報交換と交流を深め、行政及び専門家とのパートナーシップによる活動の展開を図ることを目的としたネットワークです。

入会申込先：(一財)千葉県環境財団

業務部環境活動支援課 気付

TEL:043-246-2180 FAX 043-246-6969

Eメール：info@kanpachiba.com

会費納入先：環境パートナーシップちば

郵便振替口座 00160-9-401872

<環境パートナーシップちば>

入会申込書

会の趣旨に賛同し(個人、団体、賛助会員として)
会費を添えて(郵便振替)入会します

氏名		入会年月日	
住所	〒		
Eメール			
TEL		FAX	
年会費	個人1,000円 団体2,000円 賛助会員5,000円		